全国 社衛

全社連ニュース

11月25日(火)
(令和７年)第185号

全国社交飲食業生活衛生同業組合連合会
〒105-0004
東京都港区新橋6丁目8番2 全国生衛会館5F
電話 03-5733-1975　FAX 03-5843-7465
ホームページhttps://zensyaren.net

各面の主な記事

[２面]福岡大会の祝辞と表彰者一覧
[３面]大会の懇親会が盛況
[４面]令和７年度生衛功労者表彰
[４面]全社連NET-5計画推進

◇福岡大会の大会宣言

我々は、本大会の開催にあたり、生活衛生営業は国民生活と密接な関係にあることを自覚し、社交飲食業を担う者として、その責任を認識するものである。

また、我々組合員は遵法営業のもとに、巧妙化する反社会勢力による犯罪を防止し、治安の維持に努める。更に飲酒運転を根絶し、安全・安心できる繁華街の醸成を目指す。

我が連合会は「組織の拡大と強化」を常に重要テーマと捉え、組合員の増強・未組織県の組合づくりに全力で取り組み、より多くの同業者と共に業界振興に努める。

また、令和６年度税制改正により長年要望してきた交際費課税の特例措置が拡充され、飲食費が5000円から１万円に限度額が引き上げられたことをうけ、これを飲食需要の喚起の機会とし、組合員・顧客の双方に周知をはかり、業界の活性化につなげていく。

本大会を機に全国社交飲食業者の力を結集し、目標達成の為に、より一層の衛生管理の徹底、従業員のスキルアップ、そしてお客様との信頼関係構築に邁進し、安心してご利用いただける社交空間を提供することを誓います。

お客様の笑顔と満足こそが、私たちの喜びです。

令和７年10 月27 日
全国社交飲食業代表者福岡大会

◇ 大 会 決 議

我々全国の社交飲食業者は、大会宣言の趣旨に則り参加者全員の総意を結集し、次に掲げるスローガンの早期実現に向けて邁進する。

1．組織拡大と強化に努める
1．消費拡大に向け交際費枠の拡大を求める
1．消費税減税ならびに免税枠の引き上げを求める
1．安心安全な繁華街を目指し反社会的勢力の排除に努める
1．顧客との信頼関係を構築する明確な料金表示を徹底する
1．納税のための公庫融資の確保を求める
1．全国の生衛組合活動推進月間強化に努める
1．衛生管理を徹底し食品衛生水準の向上と維持に努める

以上、決議する
令和７年10月27日 全国社交飲食業代表者福岡大会

「元気は福岡から」テーマに開催

第49回 全国社交飲食業代表者福岡大会

大会宣言と８項目のスローガン（大会決議）採択

令和７年度第49回全国社交飲食業代表者福岡大会は10月27日（月）午後、福岡県福岡市に各都道府県組合から代表者約９００名が参集し開催された。式典・大会は福岡国際会議場、懇親会はホテルオークラ福岡が会場となった。福岡では平成13（２００１）年以来、24年ぶりの開催となり今回は「コロナ『過』から５年　元気は福岡から～つながる力、広がる未来。全国社交飲食業代表者福岡大会で新たな可能性を見つけよう！」をテーマに開催された。

大会決議などを採択した福岡大会の全体会議

式典・大会の司会は全社（京）などが担当。組合旗の連の亀島延昌総務部長（東）入場では北海道から沖縄県の順に各県代表団が行進し最後に福岡県が入場した。

その後、福長徳治副会長（大阪）が開会の言葉を述べた。国家斉唱、物故者への黙祷と続き、杉元美智代大会委員長（福岡県社交理事長）が「博多ん街へ　よおきんしゃったネ」と博多弁で歓迎の言葉を述べ「コロナ禍が去って2年半、社交飲食業界は厳しい経営を続けているのも確かですが、社交飲食業界の元気なくして地域の元気はありません。福岡大会を契機に皆様、一丸となって世の中をもっともっと元気にしていきましょう」と呼び掛けた。

続いて中島ヒロ子大会会長（全社連会長）が挨拶。大会参加への謝意を示した上で「私達の業界の課題は多岐にわたっていますが、令和６年度税制改正では、交際費に関して損金算入できる飲食費が５０００円から１万円に上がり、今後も周知を図って参ります。お客様支援のスタンプラリーも10月から実施しています。組合組織の基盤強化では今の登録組合員数の５％を増強しようと『全社連ＮＥＴ－５活動２０２５』という計画を立ち上げました。目標を達成できるようにお願いします」と述べた。

全社連会旗を持つ中島会長。
右は福岡県組合の杉元理事長

続いて地元の福岡県と福岡市の代表者、県議会議長が歓迎の挨拶を述べた。

■功労者83名を表彰

功労者表彰では福岡親善大使の女性３名がアシスタントで参加。まず厚生労働省健康・生活衛生局長表彰では、受賞者11名の代表者が同省同局生活衛生課の藤本昭彦課長補佐から表彰状を受領。全国生活衛生同業組合中央会理事長感謝状は、受賞者26名を代表し山下敬子氏（福岡）が中央会の伊東明彦専務理事から受領。全社連会長表彰は受賞者46名を代表し井口尚久氏（福岡）が全社連の中島会長から受領。全受賞者83名を代表し、厚生労働省局長表彰を代表受領した迎数代氏（福岡）が謝辞を述べた。

次に前回の高知大会を主管した高知県組合の岩田和久理事長に中島大会会長から感謝状が贈呈された。

■全体会議で審議

全体会議では全社連副会長の伊添一成氏（沖縄）、町田宏之氏（新潟）、岸久氏（東京都）の3名で議長団を構成。大会宣言文を福岡県の片山順子副理事長、８項目の大会決議（スローガン）を全社連の安宅修治副会長（北海道）が読み上げ、会場の拍手をもって採択した。

この後、来賓の祝辞、次回開催地の発表、大会旗の受け渡しなどが行われ、全社連の佐々木克巳副会長（広島）の閉会の言葉で式典・大会が終了した。

来年は宮城で開催

令和８年10月26日（月）

宮城県代表団がアピール

宮城大会をアピールする高橋理事長など県代表団

大会の終盤で令和８年度第50回全国大会開催地が「宮城県」と発表された。

開催日は10月26日（月）。式典は東京エレクトロンホール宮城、懇親会は江陽グランドホテルが会場（いずれも仙台市青葉区）。

発表後、宮城県のＰＲ映像（村井嘉浩知事も出演）の上映を挟み、揃いの法被を着た宮城県代表団など約40人が横断幕を持ちながら登壇。高橋隆幸理事長などがマイクを手にアピール活動を行い、最後はエイエイオーの掛け声に続き「伊達な心でおもてなし。宮城県でお待ちしております」と呼び掛け、大会参加者からの拍手や声援に応える形で手を振った。

功労者表彰

〈敬称略〉

◇厚生労働省 健康・生活衛生局長表彰

秋田県＝小西　許子
東京都＝斎木　辰也
群馬県＝狩野　俊嗣
静岡県＝中村　誠
愛知県＝中塩　高志
兵庫県＝門内　伸之
徳島県＝長瀬　留美
高知県＝丁野　健
福岡県＝迎　数代
熊本県＝天木　元男
鹿児島県＝政井　禎久

◇全国生活衛生同業組合 中央会理事長感謝状

北海道＝旭　祐之
秋田県＝鈴木　和子
宮城県＝高橋　隆幸
福島県＝宇内　孝
東京都＝恩田　雄二
群馬県＝市場　薫
埼玉県＝小林　和也
静岡県＝松本　雅徳
新潟県＝西澤　武
富山県＝法才　秀治
福井県＝河合　緑
愛知県＝河合　秀昭
大阪府＝森　龍次
兵庫県＝田中希未子
広島県＝大下　秀之
香川県＝大澤　康司
徳島県＝松本　寛子
高知県＝門可千佳子
福岡県＝森川　徹
山下　敬子
西田　鮎美
大分県＝寺本　惠理
熊本県＝渕上　惠子
宮崎県＝岡田奈津美
鹿児島県＝米元和子
沖縄県＝野村　安成

◇全国社交飲食業生活衛生同業組合連合会会長表彰

北海道＝藤淳一、白幡慎太郎、澤岡健児
秋田県＝石川達夫
宮城県＝齋藤由美子、藤田将史
山形県＝山口愛子
福島県＝畑健一
東京都＝中島佑一、手塚マキ、佐藤和義、渡辺佐利、山本伸一
群馬県＝小林晃裕、狩野昌紀
埼玉県＝白岩文江
静岡県＝峯崎京子
新潟県＝近藤則子、田畑敏晴
山梨県＝戸野幸一
石川県＝山岸夕莉
福井県＝山本明夫
愛知県＝寺本浩二、鈴木隆博
大阪府＝中村幸子、中村美津江、大西教夫
広島県＝黒田豊、檜垣真実
香川県＝秋山瑞樹
徳島県＝榎園信一
高知県＝濱田さおり
福岡県＝三瀬由美子、井口尚久
長崎県＝田島史雄
大分県＝花山耕太
熊本県＝入江弘治、吉岡聖昇
宮崎県＝金丸聖典、森昌彦
鹿児島県＝安永ひろみ
沖縄県＝比嘉美奈子、末吉悟、伊藤京子、松田晃太郎、山川敦

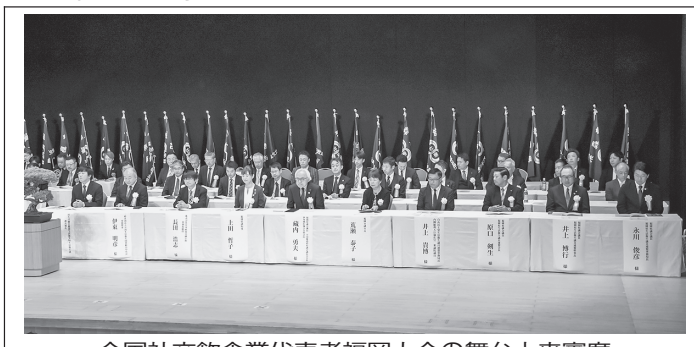
令和7年度第49回全国社交飲食業代表者福岡大会 表彰者一覧

式典

来賓代表の7氏から祝辞

厚生労働大臣祝辞は藤本氏が代読

大臣祝辞を代読する藤本氏



全国社交飲食業代表者福岡大会の舞台上来賓席

10月27日に開催された全国社交飲食業代表者福岡大会の式典では、来賓代表の方々が祝辞を述べた。

地元側の歓迎の挨拶では福岡県の服部誠太郎知事の祝辞を上田哲子副知事が代読。「令和7年度全国社交飲食業代表者大会が福岡県で盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。全国の皆様が一堂に会し業界の活性化に向けた議論を重ね、団結を確認されることは意義深いことです。本日の大会が実り多いものとなりますよう心からご期待申し上げます。また是非、この機会に『福岡の食』をご堪能下さい」と述べた。

福岡県議会議長（全国都道府県議会議長会会長）の藏内勇夫議員は「本県では『人と動物の健康、環境の健全性』を一つの健康ととらえ一体的に守っていく『ワンヘルス』の取り組みを推進しています。この機会にワンヘルス認証を受けた安全・安心な福岡県の特産物を是非ご堪能頂きたいと思います」と語った。

福岡市の荒瀬泰子副市長は「先程の組合旗の入場行進を見て皆様の盛り上がりを感じました」と所感を語った上で、高島宗一郎市長の祝辞を代読。「人口166万人を超え『元気なまち、住みやすいまち』として国内外から高く評価されている福岡市の魅力の一つが多彩な食文化です。市内には屋台文化をはじめ多種多様な飲食店が集まり、訪れる人々に特別な体験を提供しています。こうした食文化の魅力の根幹には社交飲食業の皆様の力があり安全・安心なサービスとおもてなしの心は、本市の観光施策に不可欠です」と述べた。

福岡県・市など歓迎の言葉

「福岡の食」や「ワンヘルス」アピール

表彰、全体会議を挟んだ式典後半では、先ず上野賢一郎厚生労働大臣の祝辞を厚生労働省健康・生活衛生局生活衛生課の藤本昭彦課長補佐が代読。「全社連の皆様におかれましては中島会長のリーダーシップの下、社交飲食業を通じて国民の日常生活に憩いの場をご提供頂くと共に、社交飲食業の発展や衛生水準の向上に御貢献頂いていることに深く敬意を表します。また福岡県社交飲食業生活衛生同業組合の杉元理事長をはじめ、今大会の開催に御尽力頂いた関係者の皆様に対し深く感謝を申し上げます」などと祝辞を述べた。

全国生活衛生同業組合中央会・大森利夫理事長の祝辞は伊東明彦専務理事が代読。「多くの生活衛生業者は利益ベースでみると、まだコロナ前に戻り切れず、今なお厳しい状況に置かれています」と報告した上で「当中央会においては、16業種の全国生活衛生同業組合が一致団結して生衛組合の組織強化・活性化を推進し、業界振興のための各種施策の拡充に引き続き取り組みます」と決意を述べた。

日本政策金融公庫常務取締役の長田浩志・生活衛生部門長は「社交飲食業をめぐる環境が厳しい中、皆様が一堂に会し活発に情報交換されることは大変、意義深く本大会がご商売の更なる繁栄に繋がることを期待します。日本公庫も皆様をサポートできるよう金融面での支援はもとより組合加入案内など組合活性化への協力、各種事業支援に取り組んで参ります」と話した。

福岡県生活衛生議員連盟会長の原口剣生・福岡県議会議員は「大勢のご参集の中で本大会を開催できたことをお祝い申し上げますと共に、表彰された皆様のなお一層のご尽力と、ご発展を祈念いたします。また今大会を契機に、なお一層、社交の皆様方と個々の店舗が繁栄されますようご祈念いたします」と語った。

102歳参加者に花束

福井の三宅はる子さん

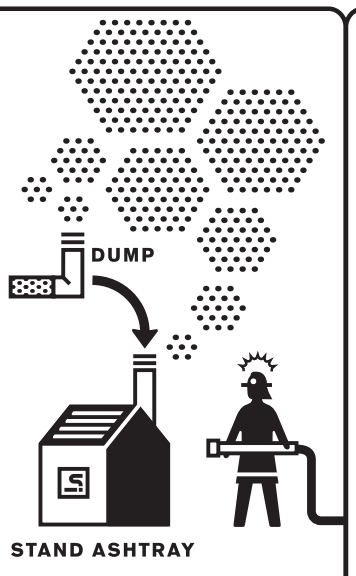
大会式典でサプライズ

福岡大会の式典では、中島ヒロ子全社連会長が挨拶の途中、102歳の参加者がいることを紹介。サプライズで花束が贈られる一幕があった。

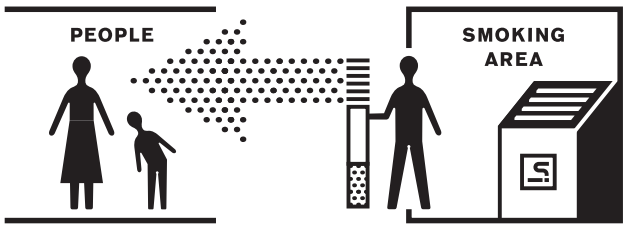
この参加者は福井県組合副理事長の三宅惠子さんの母・三宅はる子さん。昨年の高知大会に続き、車椅子で大会に参加。式典修了後の懇親会でも福井県組合のテーブルで食事や余興などを楽しんでいた。

◇上の写真は福岡親善大使の女性（右）から花束を受け取り娘の惠子さん（中央）と写真に収まる三宅はる子さん

スタンド灰皿。
火を消さないで
入れるのは、
煙をふやす
行為だ。
Stand ashtrays.
Disposing of a lit
cigarette in one just
creates more smoke.



喫煙所の一歩外は、
ちょっと喫煙所だと思ってた。
I thought a step outside the smoking area
was still a smoking area.



ながらは。
たばこ
なくなる
あなたの
気づかい
マナー変わる

MORE INFO → www.jt-manners.jp

JT

全国社交飲食業代表者福岡大会・第2部

懇親会で参加者に一体感

全国社交飲食業代表者高知大会の懇親会は式典終了後、会場を福岡市の「ホテルオークラ福岡」の宴会場に移し午後6時から行われた。ここでは地元・福岡にちなんだアトラクションが披露されたほか、恒例の全社連カラオケ選手権で大いに盛り上がり、参加者に一体感が生まれた。カラオケ選手権は、中四国ブロック代表の藤原しのぶさんが優勝の栄冠を手にした。

博多券番による「祝舞」がオープニングを飾った

懇親会会場の入口では福岡県組合・会員店の女性100名弱が2本の花道を作る形で立ち並び、各都道府県の参加者を迎えた。

懇親会はフリーアナウンサーの中尾香織さんが司会。初めに杉元美智代大会委員長（福岡県理事長）、続いて中島ヒロ子大会会長（全社連会長）が挨拶。来賓からは㈱ロイヤルボックス代表取締役社長の藤堂和子氏が祝辞を述べた。

この後、博多券番（博多の芸妓衆）による艶やかな祝舞が披露された。ここでは立方の芸妓2人が舞台中央で美しい所作の舞踊を披露。三味線、鼓（つづみ）の奏者等を含め総勢15名の女性による祝舞に会場から大きな拍手が送られた。

盛況の中、「博多手一本」で締めた懇親会

続いて福岡県組合顧問（前理事長）の大﨑信昭氏の発声により参加者全員で乾杯し宴会に入った。大会参加者は、それぞれの円卓でホテルのコース料理を堪能しながら、都道府県の垣根を越えて交流を図った。

乾杯後のアトラクションでは、ダンサーの三田セミリさんによるエレクトリックなダンスショーが会場を盛り上げた。

続いて第17回全社連カラオケ選手権がスタート。全国8ブロックの代表者8人が、地元代表団の熱い声援を受けながら得意曲を熱唱した。

カラオケ選手権で代ブロック表8人競う

優勝は藤原さん（中四国代表）

優勝し表彰された藤原さん

全国8ブロックのカラオケ代表者

審査員を務めた日本音楽著作権協会ライセンス事業本部長の奥西望氏やカラオケ使用者連盟代表理事の梶喜代三郎氏、全国カラオケ事業者協会副会長の毛利泰介氏など5名による審査の結果、優勝は中四国ブロック代表で麻倉未稀の「ヒーロー」を歌った藤原しのぶさん（徳島）に決まり、全社連の中島ヒロ子会長からトロフィーや賞金目録等が贈られた。曲は大会を主管した福岡県組合をたたえる意味で選んだという。

準優勝は九州ブロック代表でMISIAの「エヴリシング」を歌った三宅ゆかりさん（福岡）、3位は東北ブロック代表でASKAの「はじまりはいつも雨」を歌った高橋昭広さん（岩手）が選ばれた。また次の方々が表彰された。【DAM賞】山﨑晴菜さん（北海道ブロック）【JOYSOUND賞】布施壮汰さん（中日本ブロック・大阪）【全国カラオケ事業者協会賞】伊東一幸さん（関東ブロック・静岡）【カラオケ使用者連盟賞】春乃エリカさん（東京ブロック）【JASRAC賞】國吉武志さん（沖縄ブロック）

▼台湾出身歌手がショー

審査中には台湾出身の歌手、レイジュさんの歌謡ショーが行われ、「空港」などテレサテンのヒット曲や自身のデビュー15周年記念シングル「サイナラあんた」などを披露した。

博多券番の祝舞で始まった懇親会

〝締め〟も博多流

祝いめでたと博多手一本

博多券番の祝舞で幕を開けた福岡大会の懇親会は、終盤も地元色が濃く出た終わり方となった。

先ず閉会の挨拶に続いて歌われた祝いめでた（博多祝い唄とも言われる）。博多の祝いの席で歌われる民謡で、舞台上には地元代表の4名が登壇。順番に歌声を響かせ、大会参加者も起立し手拍子を打ちながらスクリーンに映された歌詞を口ずさんだ。

続いて手締めを「博多手一本」で行った。いわゆる一本締めとは異なり、独特の拍子で複数回手を打つのが特徴の手締めで、音頭役の男性と共に手を打った。地元では宴席などで日常的に行われているという。

大会参加者は、この二つを実際に体験して会場を後にし、博多流の懇親会の余韻に浸りながらナイトマップを片手に中州など歓楽街に繰り出した。

都道府県組合にフォーカス

⑱福島県社交飲食業生活衛生同業組合

南相馬含め10支部で活動中

「会員増強へ組合の知名度上げる」

鈴木理事長

福島県組合は今年の総会で理事長が佐藤吉昭氏（現常任相談役）から元理事長の鈴木悦朗氏（76）に替わった。鈴木理事長は「組合の閉塞感を打破し活性化させるため就任後、幹部と事務局の若返りを図りました」と語る。

新副理事長と専務理事には50歳前後の役員を登用したという。

支部は昨年、南相馬支部が誕生したが、今年は郡山支部が休会。福島、飯坂、あいづ、二本松、須賀川、石川、平、伊達、本宮など10支部で活動している。

福島支部では「ふくしまぐるっとまわってMAP」を制作し、市内のビジネスホテルなど22カ所で無料配布。掲載店の特典クーポン付で今年3月発行の16号は1万5000部を発行した。組合の掲載店舗やホテルからの冊子の依頼は増えているという。またチケットを購入したお客さんが参加組合店で、はじご酒を楽しみ抽選にも参加できる「来て！みて！呑んでラリー」を福島市の補助を受け毎年、開催している。

こうした行政との連携も土台となり「福島県から来年度デスティネーションキャンペーン（補助金事業）の案内を頂いており県組合として手を挙げる方向で、各支部からアイデアを募っています」（同）と語る。

福島県組合の全社連登録人数は今年4月時点で4330人。近年は減少が続いており、鈴木理事長は「組合員の増強は大きな課題で、500人に戻す目標を支部長とも共有しています。各支部では地域のイベントなどに積極的に参加・協力し組合の知名度を上げてほしいです」と話している。

事務所移転　福島県社交飲食業生活衛生同業組合は事務所を左記に移転した。〒960－8036福島市新町1－26　第7清水ビル2階。☎024－522－5577、FAX024－573－4436。メールアドレス＝f-shako@olive.plala.or.jp

全社連賛助会員

	（企業名）	（TEL）
酒類メーカー	アサヒビール株式会社	03-5608-5158
カラオケ機器	株式会社エクシング	03-6848-8183
酒類メーカー	キリンビール株式会社	03-5641-2270
酒類メーカー	サントリー株式会社	03-5579-1000
カラオケ機器	株式会社第一興商	03-3280-2151
たばこ事業	日本たばこ産業株式会社	03-6636-2914
電力・ガス	株式会社ミツウロコヴェッセル	03-3275-6316

あの日が目に浮かぶ
音楽がある

著作権をまもることは、未来に音楽をつないでいくこと

記憶に残るメロディや歌詞。心をふるわす音楽に出会った歓び。
音楽とその想いが未来へずっとつながるように。
私たちJASRACは、著作権をまもり、音楽を生み出す作詞家・作曲家などの
創作活動をこれからもしっかりと支えていきます。

JASRAC®

一般社団法人 日本音楽著作権協会 〒151-8540 東京都渋谷区上原3-6-12 TEL(03)3481-2121(大代表)　www.jasrac.or.jp

全社連から22名が受賞

令和7年度 生活衛生功労者表彰

関係者と記念写真に収まる全社連の受賞者

厚生労働大臣表彰 8名

中央会理事長表彰は14名

厚生労働省と（一社）全国生活衛生同業組合中央会の令和7年度生活衛生功労者表彰式典が、10月24日（金）午後12時30分から東京都千代田区のホテルニューオータニ鳳凰の間で行われた。

全社連からは厚生労働大臣表彰で8名、全国生活衛生同業組合中央会理事長表彰で14名が受賞の栄誉に浴した。

式典は国歌斉唱で始まり、厚生労働大臣表彰式では上野賢一郎厚生労働大臣の挨拶を代理で大坪寛子健康・生活衛生局長が代読。続く表彰状授与では、大坪局長から受賞者123名の代表者に表彰状が授与された後、代表者が謝辞を読み上げた。

全国生活衛生同業組合中央会理事長表彰式では、大森利夫・中央会理事長の挨拶に続き、大森理事長から受賞者151名の代表者に表彰状が授与された後、代表者が謝辞を読み上げた。

式典には全社連会長で全国中央会副会長の中島ヒロ子氏も出席し、檀上の主催者席に就いた。

終了後は連合会ごとに関係者を交えた記念写真を撮影した。

この後、全社連は別室で受賞者を囲むお祝いの会を開催。式典に出席した全社連役員も参加し、軽食をとりながら受賞を祝った。

（左表の全社連受賞者名は敬称略）

厚生労働大臣表彰

都道府県	氏名
北海道	菅原　政明
長野県	中村　吉秀
福井県	三宅　惠子
兵庫県	北野　政男
広島県	新見　亮二
大分県	長尾　淳子
熊本県	立川　慎祐
沖縄県	垣花　有人

中央会理事長表彰

都道府県	氏名
岩手県	瀬戸　美栄子
秋田県	渡辺　純二郎
宮城県	高橋　隆幸
山形県	横山　陽子
東京都	亀島　延昌
埼玉県	泉　智太郎
富山県	砺波　彰裕
福井県	吉浪　浩一
愛知県	中塩　高志
三重県	中村　将
三重県	藤田　満知子
広島県	木村　敏彦
熊本県	林　宏明
沖縄県	松田　隆

全社連

NET−5（組合員の5%純増）達成へ一丸

リーダーズ研修会で各県幹部に周知

全社連は11月17、18日の2日間、東京で「全社連NET−5活動2025の推進」をテーマとしたリーダーズ研修会（令和7年度生活衛生関係営業対策事業研修会）を開催した。

NET−5活動2025は、組合員の減少に歯止めをかける対策として計画され、9月の理事会で承認された。令和7年度末までに各都道府県組合が今年度の組合員数を維持しながら5%鈍増（7年度補助金事業実施5都県＝宮城、山梨、東京、岐阜、愛知は10%鈍増）を目標に取り組む。

研修会では「今、組合に最も必要な組織の基盤強化と活動」としてテーマに据えられた。各組合からは理事長など幹部クラスの役員等約70名が参加。NET−5の意義や目標を共有した。研修会の冒頭、中島ヒロ子会長は挨拶の中でNET−5について「（組合員を増やし）もう一度、活気ある組合にしていくため皆さんのお力をお貸し下さい」と述べると共に、全社連の正副会長は不退転の決意で取り組むことを報告した。

研修会の2日目では初めにNET−5活動2025の具体的手順について岸久副会長兼専務理事が説明。この活動に取り組む経緯・目的、各県組合の組合員数の推移やNET−5での計画数、現状登録数から見た今後10年間の将来推計数、生衛法との関連、各都道府県人口10万人あたりの組合員割合について説明。新規組合員ごとに各県組合が全社連事務局に送る登録申請書についても説明した。

この後、伊添一成・全社連基盤強化チーム長を筆頭に佐々木克巳副会長、安宅修治副会長が「組織拡大と基盤強化について」と題し講演。沖縄県組合ではNET−5の達成に向けて活動を開始したことも報告された。さらに町田宏之副会長による研修会の全体総評の中でも組合員増強及びNET−5に取り組む必要性が語られ、福長德治副会長の閉会挨拶では参加者全員の「ガンバロー」コールで閉会した。

リーダーズ研修会（令和7年度対策事業）東京で開催

厚生労働省の藤本課長補佐の講演を聞く参加者

11月17、18日にKKRホテル東京で開催された全社連のリーダーズ研修会（令和7年度生活衛生関係営業対策事業研修会）は初日に厚生労働省生活衛生課の藤本昭彦課長補佐が基調講演。全国生活衛生同業組合中央会の梅澤雅男事務局長、㈱日本政策金融公庫の中村裕一郎・生活衛生融資部長の講演と谷川豪上席グループリーダー代理による生衛貸付の活用方法のレクチャー、懇親会が行われた。

2日目には全社連の組織拡大と基盤強化、NET−5の講義が行われた。

詳細は1月号に掲載

全社連のプレミアムナイトスタンプラリー中間報告

週ごとに追うに抽選応募数が増加

参加店は大阪、登録者は新潟がトップ

10月1日に始まった全社連のキャンペーン事業「煌めく夜に乾杯！プレミアムナイトデジタルスタンプラリー」が11月30日に終了する。全社連のリーダーズ研修会では、運営委託会社の集計などを基に中間報告が行われた。

今回はお客様がキャンペーンの参加店を2店利用しデジタルスタンプを2個集めると、スマホを使った抽選に応募できるスキーム。賞品はデジタルギフトカードのQUOカードPayで1等1万円分が9本、2等2000円分が3960本当たる。抽選は期間中、9週にわたって行われる。

全国の参加組合店は約4700店。大阪が1225店で最多。新潟（420店）、三重（396店）、熊本（264店）、青森（253店）、愛知（251店）などが続いた。一方、キャンペーン登録者（お客様）は10月末現在・3704人。居住地は新潟が575人で最多。三重（273）、長崎（267）、沖縄（264）、北海道（236）、滋賀（226）などが上位を占めた。男女比は約6対4と拮抗。年代は40代、50代が各3割近くと多かった。

10月末現在、登録者が2店利用で集めたスタンプ取得数9902個、抽選への応募数は3701件で、金曜など平日・週後半の動きが目立った。

このうちスタンプ取得数の多い店トップ20には、三重の店が7店、新潟が4店、北海道、群馬、岐阜、長崎の店が各2店、滋賀の店が1店入り、1、2位は岐阜の店が占めた。

抽選では11月11日までの6週全てで当選数を上回る応募数があり、キャンペーン期間の経過につれ応募数も増加（第6週は1445）。各週の当選本数は同じだったが、当選確率は第1週の96%から第6週では31%まで下がった。

中間報告のまとめとして次の点を挙げた。▽メインターゲット層（40、50代）の確実な補足と高いリピート率、全国的な規模での認知▽「2店舗以上の周遊促進」は極めて高水準。

スタンプラリーのポスター

日本公庫の生衛業景況調査7−9月期

全体では低下も 社交は前期より改善

日本政策金融公庫は、このほど生衛業景気動向等調査結果（今年7−9月期）を公表した。

それによると、生衛業（15業種）の景況は業況判断、売上、採算のDI値がいずれも前期（今年4−6月期）を下回った。日本公庫は生衛業の景況判断を引き続き「持ち直しの動きに足踏みがみられる」とした。DI値は結果が良い企業の割合から悪い企業の割合を引いた指数。

■社交のDI値は改善もマイナス水準の項目多く

社交飲食業のDI値は業況判断が前期より3・7ポイント増の▲（マイナス）15・6、売上が3・5ポイント増の▲11・2、採算が2・3ポイント増の▲20・6、利用客数が4・4ポイント増の▲18・8、客単価が1・6ポイント増の0・5だった。生衛業全体同様、マイナス水準の項目が多い。

事務局日誌

10月24日　令和7年度生活衛生功労者表彰式。中島会長、岸副会長兼専務理事、岩瀬事務局長。

10月26日　令和7年度全国社交飲食業代表者福岡大会リハーサル。

10月27日　令和7年度第49回全国社交飲食業代表者福岡大会。

11月17日　令和7年度第4回正副会長会議。正副会長、執行部。

11月17日〜18日　令和7年度生活衛生関係営業対策事業研修会。

11月18日　第5回正副会長会議。正副会長、執行部、事務局長。

11月19日　第23回全社連暴力団等排除対策協議会。福長副会長、町田副会長、伊添副会長、岸副会長兼専務理事、土岐理事、水長理事、守岡理事、杉元理事他。

広めよう飲食費の拡大

お客様への周知にご協力を！